

■ 実践報告 ■

大学・行政・社協の協働による、地域福祉活動の核となる住民養成「地域福祉ファシリテーター養成講座」の取り組み

秋 貞 由美子*

2008年3月に厚生労働省「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」がまとめた報告書では、地域における多様なニーズへの的確な対応を図る上で、地域住民が主体的に関わり、支えあう、「新たな支え合い」の拡大・強化がこれからの地域福祉において求められるとしている。そして、その展開の条件の1つとして、活動展開の核となる人材の必要性を提起している。

本学・コミュニティ人材養成センター¹⁾では、地域福祉活動の核となる住民養成の取り組みとして、近隣の三鷹市・武蔵野市・小金井市の3市行政および3市社会福祉協議会（以下、3市社協とする）と協働し、「地域福祉ファシリテーター養成講座」を、2009年度より3カ年実施している。本報告は、その講座の内容と成果、今後の課題等について実践報告するものである²⁾。

1. 講座の目標

ファシリテーション (facilitation) とは、「促進する」「容易にする」「円滑にする」「スムーズに運ばせる」という意味であり、人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶように舵

取りすることを表す。その役割を担う人がファシリテーター (facilitator) であり、日本語では「協働促進者」または「共創支援者」等と訳され、メンバーの参加を促進し、プロセスの舵取りをする進行役を指す³⁾。

講座名を「地域福祉ファシリテーター」と名付けたのは、活動の先頭に立つリーダーというよりは、住民自身が持つ多様な人的・社会的資源を生かして、地域の取り組みとして活動を促進＝ファシリテーションする役割を果たす住民を養成する、という意図からである。よって、「地域福祉ファシリテーター」とは、住民の立場から、地域の福祉課題や地域の中で支援を必要としている人を発見し、自らが持つ能力や人脈、社会資源を生かしながら、その課題や支援を必要とする人に対する、具体的な支援活動を企画・実施する人々のことを、イメージしている。そして本講座は、自らが住む地域を大切に思い、その福祉に貢献する意欲のある住民を発掘し、「地域福祉ファシリテーター」として養成し、彼らが促進者となって、講座修了後、具体的な「新たな支え合い活動」が実際に展開されることを目標としている。

2. 推進体制

講座の実施にあたっては、本学が講師・教材の提供等を含め講座を企画・実施し、3市社協は受

* Akisada, Yumiko
ルーテル学院大学専任講師（社会福祉学科）
コミュニティ人材養成センター

講生の募集，講座内で実施するヒアリングの調整，修了生のフォローを担い，3市行政が都の補助金等を活用して経費を負担する，という形で役割分担を行なっている。

また，3市社協・3市行政・本学で構成される

7者会議において，講座の方針やプログラム全体の企画を協議し，3市社協と本学で構成される4者会議において，講座の1つ1つのプログラム（シンポジウムやヒアリング調査等）の内容について協議をしている（図1参照）。

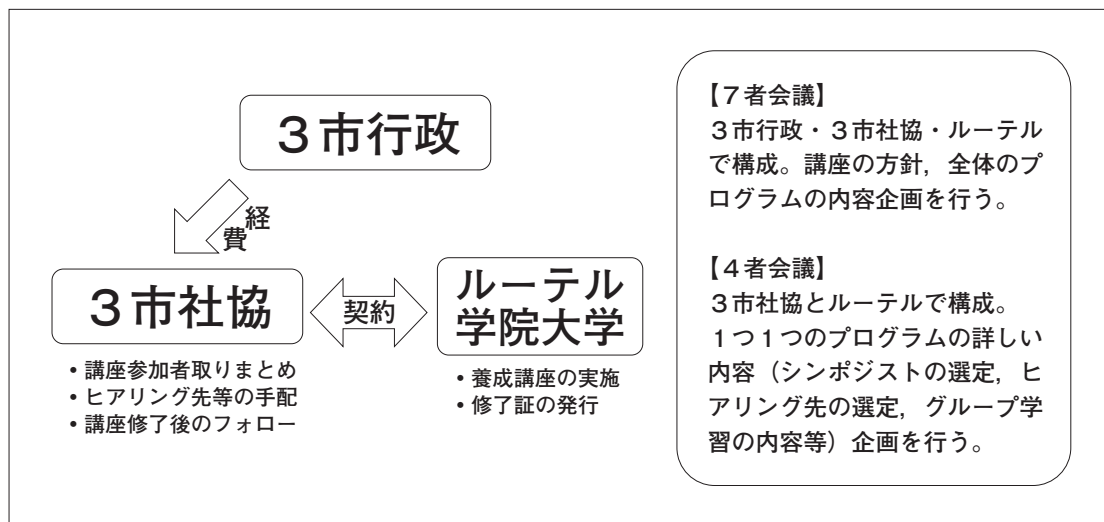


図1 7者の役割分担

3. 講座の内容

講座は本学を会場として行っている。講座の開講期間は毎年6月から1月までの8カ月間とし，3時間の全体講座8日間と，その間に小グループでのグループ学習を夏と冬の2回盛り込んでいる。

講座の内容は，大きく前後半に分かれる。前半は「地域を知る」ことを目的として，全体で地域の福祉課題や地域の様々な活動等について学んだうえで，夏期グループ学習において地域の福祉課題について調査を行うワークショップを行う。後半は「新たな支え合い活動」を企画することを目的として，全体で地域福祉活動の企画方法を学んだ上で，冬期グループ学習において具体的な活動の企画をするワークショップを行う。（図2，図3参照）

夏期グループ学習では，講座2日目のプログラム「地域の福祉課題を考えよう」で受講生の関心

が高かった課題を3つ設定し，受講生の希望をとり，1つの課題につき2つのグループを構成する（計6グループ，1グループあたり6～7名）。グループ学習を通じて3市の状況を互いに知ることができるよう，3市混合でグループメンバーを構成し，グループごとに，各課題に見合った機関・団体に出向きヒアリング調査を実施する。ヒアリング項目の作成→ヒアリング→報告会（講座4日目）にむけたまとめの作成，の一連の学習を本学教員が指導する。3年間の講座で設定された夏期グループ学習の課題とそのヒアリング先は，図4のとおりである。

冬期グループ学習では，自分の地域で実際に展開可能な「新たな支え合い活動」を小グループに分かれて企画する。グループメンバーは夏期グループ学習とは異なり，同じ市のメンバーで構成され，そのグループ分けは，グループ講座終了後に企画した活動が実際に展開できるよう受講生の地域性や属性等を考慮し，3市社協が行う。各グ

大学・行政・社協の協働による、地域福祉活動の核となる住民養成「地域福祉ファシリテーター養成講座」の取り組み

ループを本学教員が指導し、社協職員も必要に応じて共に参加し、具体的な活動企画にあたって必要な情報を提供する。受講生は実際に地域にある

福祉課題に着目し、現存する社会資源を活用して新たな活動の企画を行う。企画した活動は、講座最終日に全体へ発表する。

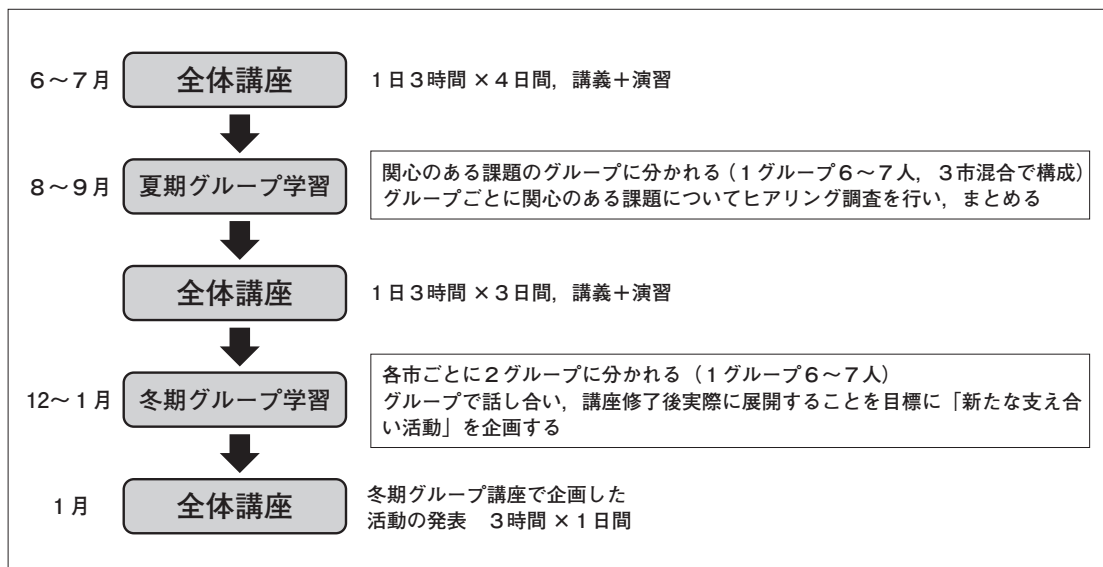


図2 講座のスケジュール

地域の活動と課題を知る	プログラム	
	1日目	講義「これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割」 講義と演習「地域で役立つ社会資源を発見する」
	2日目	演習「地域の福祉課題を考えよう」
	3日目	講義と演習「地域でサポートするときの人との関わり方」
	4日目	シンポジウム「地域の活動を知ろう」
	グループ学習	「地域の福祉課題を調査する」
	5日目	福祉課題レポート発表
	6日目	講義と演習「活動の計画をたてる手法を学ぶ」
活動を企画する	7日目	講義と演習「活動の計画をたてる手法を学ぶ」
	グループ学習	「福祉課題解決に向けた『新たな支え合い』活動を企画する」
	8日目	プレゼンテーション「私たちが企画する『新たな支え合い』活動」 修了式

図3 講座のプログラム

	課 題	ヒアリング先
2009年度	子どもをめぐる課題について考える	子ども家庭支援センター 認知症デイと無認可保育所を行っているNPO法人
	高齢者の見守りについて考える	地域包括支援センター 高齢者の見守りやちょっとした手伝いを行う活動をしている地域ケアネットワーク
	災害要支援者への支援のネットワークづくり	市の防災部局 災害時要援護者対策モデル事業実施地域社協
2010年度	住民の参加をどのように得るか、活動者をいかに増やすか	社協ボランティアセンター 参加者が活動しやすい工夫をしているボランティアグループ
	孤立を防ぐ取り組み、見守り、居場所づくり	地域包括支援センター サロン活動を行なっている地域ケアネットワーク
	災害時の支援	市の防災部局 自主防災活動を展開しているボランティアグループ
2011年度	住民同士の交流の場づくり、仲間づくりをどのようにすすめるか	精神障がい者の交流の場づくりを展開しているボランティアグループ 地域の寄居所を展開しているNPO法人
	支援を必要とする人を把握し、必要な情報を提供・共有し、見守り活動をいかにすすめていくか	在宅介護支援センター 見守り活動を展開している地域グループ
	住民同士の助け合いのしくみづくりや、ちょっとした手助けができる人づくりをどのようにすすめていくか	小地域ネットワーク実施社協事務局 高齢者の見守りやちょっとした手伝いを行う活動をしている地域ケアネットワーク

図4 夏期グループ学習の課題とヒアリング先

4. 受講生の状況

講座の受講生は、3市で現在なんらかのボランティア・市民活動に参画している市民で、3市政または3市社協が推薦または公募した者として

いる。定員は、少人数での演習を主体とした講座とするため、1市あたりの参加者数を15名程度（3市合計で45名程度）として募集を行っている。3カ年の受講人数は図5のとおりである。

	三鷹市	武蔵野市	小金井市	合計
2009年度	15	13	12	40
2010年度	15	10	13	38
2011年度	17	16	10	43
合計	47	39	35	121

図5 過去3カ年の受講人数

なお、3市の状況は以下のとおりである。

①三鷹市：人口約17万人、社協が小地域ネットワーク「ほのほのネット（28班）」を展開、また市が中学校区を単位とした「地域ケアネットワーク（現在7地区中4地区構築）」を展開している。

②武蔵野市：人口約13万人、13の地域（地区）

社協が設置されているが、町会がない。

③小金井市：人口約11万人、町会はあるが、それ以外の小地域ネットワークはない。

受講生の主な属性は、上記の3市の特色を反映し、三鷹市からは「地域ケアネットワーク」の構成員と「ほのほのネット」の構成員、武蔵野市からは地域社協の役員やNPO団体で活動をしてい

大学・行政・社協の協働による、地域福祉活動の核となる住民養成「地域福祉ファシリテーター養成講座」の取り組み

る市民、小金井市からは民生委員とボランティア活動者となっている。他に専門機関の職員、社協職員、2010年度以降は公募に応じた市民もわずかであるが受講している。

講座を受講したきっかけは、講座最終日に受講生に対して実施したアンケート結果によれば、自ら進んで参加した受講生と行政・社協等から勧められて参加した受講生が、ほぼ同じ割合である。(図6)

	2009年度 n=39			2010年度 n=36			
	自ら	勧められて	その他	自ら	勧められて	その他	未記入
三鷹市	10	5	0	5	10	0	1
武蔵野市	9	4	1	6	1	1	0
小金井市	4	5	1	5	4	2	1
合計	23	14	2	16	15	3	2
%	59.0%	35.9%	5.1%	44.4%	41.7%	8.3%	5.6%

図6 講座受講のきっかけ 講座最終日に実施したアンケート集計結果より

5. 講座修了後の活動展開

先に述べたように、本講座は、講座修了後「地域福祉ファシリテーター」が核となって、具体的な「新たな支え合い活動」が実際に地域で展開さ

れることを目標として実施している。過去2年間の講座で受講生が企画した活動は、2009年度は6件、2010年度は5件であるが、その内容と講座修了後の展開の状況は、以下のとおりである。

(1) 2009年度の受講生が企画した活動

	講座で企画した活動内容	講座修了後の展開
1	市のリバースモーゲージ物件を活用した地域住民の交流・居場所づくり活動	市内に住民同士の交流の場「居場所」を展開していくための学習会を修了生が中心となって実施。具体的な居場所づくりについて検討を行っている。
2	災害時助け合いのできる地域づくりを目指し、地域住民向けの啓発講座やそのための教材づくり	企画したグループメンバーは同じ地域社協役員で構成されており、またその地域社協が市から災害時要援護者対策事業のモデル指定を受けていた。そこで、講座修了後、実際に講座で作成した教材や資料をもとに、地域社協内で住民向けの防災啓発講座を実施した。
3	その地域の中心地に建つ神社の社務所を拠点とした、地域住民の居場所づくり活動	神社の社務所での実施は事情により困難だったが、別の団地の集会所を活用し、住民同士の交流の場「みんなの居場所 スマイルかふえ」を月1回開催中。運営は修了生が実行委員会を作って実施。子育て中の母親や障がい者を抱える家族、高齢者などが訪れる交流の場となっており、活動を聞いた市民から「同じような場を作りたい」という相談が寄せられたりしている。
4	オーナーの好意で利用可能な美容院の2階を拠点とした、まちづくりの発信基地づくり	定年退職した男性が地域とのつながりを作るきっかけづくりを目標として企画。修了生が「わがまち発信基地」というグループを作り、住民自らが「まちのよさ」「まちの歴史」を知る活動として、地元の学芸員を講師に招き、まちの歴史を学んだり、地域の史跡を散歩して交流する取り組みを、2～3カ月に1回開催。活動開始2年目となった2011年度は、子どもに竹細工づくりを教える活動を行なっている。
5	地域内の活動グループと連携し、定年退職後の住民をターゲットにした「地域デビュー応援サロン」の開催	修了生の1人が活動しているボランティア団体が、シニアを対象に活動している他のグループや地域で活動している様々な団体、町会に呼び掛け、実際に「地域デビュー応援サロン」を2010年1月に開催。
6	地域包括支援センターと連携した、安否確認のためのSOSキーホルダー普及活動と住民の交流の場づくり	企画した活動については具体的な活動展開には至っていないが、住民の交流の場づくりは修了生の一部が所属する団体で展開されている。

(2) 2010年度の受講生が企画した活動

	講座で企画した活動内容	講座修了後の展開
1	受講生の自宅を開放した，小中学生の子どもを持つ親の交流の場づくり	修了生の自宅を開放し，修了生が実行委員会を組織して，第1回目の交流の場「ホームカフェ こたろうの家」を2011年5月より開催。第1回目の参加者は小中学生の子どもを持つ親や乳幼児を育てる親，祖父母など22人の参加があったとのこと。現在，1か月に1回の頻度で開催中。
2	昭和30年代後半にできた団地における住民同士の支え合い活動と，その実現に向けた高齢者のニーズ調査	本学教員の研究事業とタイアップし，講座修了生，それ以外の民生委員やボランティア，本学学生と一緒に，団地に住む高齢者にニーズ調査（訪問調査）を2011年5月に実施。その後，サロンなどの支え合い活動をどのように展開していくか，修了生によって話し合いがもたれ，地域包括支援センターと協働して，団地住民を対象とした講座を企画している。
3	80歳以上の高齢者を対象とした住民同士の見守り活動と，丁目・ブロックごとの地縁マップづくり	今後については検討中
4	高齢者や介護する家族の孤立防止をめざした，8月と2月の「あいさつ・声かけ運動週間」の展開	講座修了後，2011年2月には，企画した修了生グループが，「あいさつ・声かけ運動週間」を全市的取り組みとして行いたい旨，市と社協に提案。2011年度はモデル的に取り組むことをめざし，修了生自身が所属する団体で呼び掛けている。
5	乳幼児を育てる母親の息抜きや地域住民との交流，母親同士のつながりづくりを目的とした，講座の実施	まずは母親が参加したいと思える講座を開催することが必要と考え，修了生のついでで写真サークルのメンバーを講師に迎え，子どもを上手に撮影する方法を学ぶ「親子の『ラブフォト』講座」を2011年5月に開催。当日は14組の親子が参加。今後についても検討中。

6. 講座の効果

受講生に対して講座修了時にとったアンケートによれば，受講生の多くが講座での学びが今後の活動に活かせると感じていた。(図7)

Q. この講座は今後の活動に活かせるか？

選択肢：大いに活かせる，まあまあ活かせる，あまり活かさない，わからない

	2009年度 n=39			2010年度 n=36	
	大いに	まあまあ	未記入	大いに	まあまあ
三鷹市	7	7	1	10	6
武蔵野市	10	4	0	4	4
小金井市	9	1	0	6	6
合計	26	12	1	20	16
%	66.7%	30.8%	2.5%	55.6%	44.4%

図7 講座修了時のアンケート集計結果

また，講座のなかで企画した活動を，講座修了後実際に展開している，または展開に向けて検討している例が企画された11件のうち9件となっている。このことは，講座を修了した「地域福祉

ファシリテーター」が核となって，講座修了後，具体的な「新たな支え合い活動」が実際に展開されるという目標を，ある程度達成できていると言える。

7. 具体的な地域福祉活動の創出へとつながる要因

本講座が住民による具体的な地域福祉活動の創出へとつながる講座として展開できている要因は何か、以下に整理する。

(1) 3市の住民が共に学んだことにより、行政区域を越えた仲間づくりができ、視野が広がったこと

講座前半の夏期グループ学習において3市混合のグループで学習したことにより、受講生は自ら居住する市以外で地域活動を展開している受講生と知り合い、自らが感じている地域の課題について意見交換を行い、既に地域で行われている様々な取り組みについて情報を共有した。このことは受講生同士の行政区域を越えた仲間づくりにつながったと同時に、居住する市と近隣市を比較し、自らが居住する市のよさと抱える課題への気づきへとつながった。

講座修了時の受講生へのアンケートにおいても、「自分の市と他市を比較することで学ぶことが大変多くあった」「普段は会うことのない他市で活躍している皆さんと勉強する機会ができ、抱えていること、同じ悩みなど話合い、これからの活動にいかせたらいいなあと思いました」等の回答が寄せられ、3市合同で学んだことが受講生の視野を広げ、活動に携わる意欲の向上へとつながったことが伺えた。

(2) 大学が持つ授業ノウハウを生かし、演習を中心としたプログラム

本学は大学の授業カリキュラムの中で多くの演習を行っている。このノウハウを生かし、講座をワークショップ形式の演習を中心とした内容にした。「話合いの進め方、意見交換、意見の引き出し方等、大変参考になりました」「情報の集め方、分析の考え方、問題の見つけ方、課題解決に向けて優先順位の決め方、頭の中で整理組み立てていく仕組みについてまなぶことができた」等、受講生は演習を体験することを通じて、ファシリテ

ーターとしてどのように活動を企画し、メンバーの合意形成を行い展開していくか、その手法を学んでいることが伺える。

(3) 講座の後半のグループ学習は、同じ市のメンバーで構成し、実行可能な活動を企画する内容にしたこと

講座の後半の冬期グループ学習では、講座修了後、引き続き企画したメンバーで活動が実行できるよう、グループメンバーを同じ市の住民で構成した。そして、地域の課題について共に考え、実際にある社会資源を活用して、できるだけ具体的に実行可能な活動を企画する内容のグループワークを行った。同じ市に住む者同士が共に企画する作業を通じて、講座修了後に企画した活動を実際に展開することへのモチベーションが高まり、引き続き修了生が主体的に集まり活動展開に向けて話し合いを続け、実行されている。

(4) 講座修了後の社協によるフォローアップ

講座修了後、地域福祉ファシリテーターとなった修了生が、企画した活動を展開していくプロセスにおいて、社協がフォローアップしている。具体的には、打合せ会の開催や、活動の広報、資金や機材の援助、様々な情報提供等である。社協が、メンバーの主体性を大切にしながら、こうしたフォローアップを行うことも、活動の実現につながっているといえる。

また、受講生が講座修了後に実際に展開する活動に対しては、社協および大学が名義後援することとし、その活動が地域での理解を得られるようにサポートしている。

(5) 「大学」を学習の場としたこと

1つの市の行政や社協主催でこうした講座を行うと、ともすると受講生が受け身的になったり、または行政や社協に「押しつけられている」と感じてしまったりするリスクがある。本講座は、行政区域を越えて学び合うため、受講生は、自らの地域が抱える課題を、他市の住民との意見交換を

通じて客観的に学ぶことができている。また、学ぶ場を「大学」とし、地域福祉・地域開発を専門とする教員が講義・演習を展開したことは、受講生が学問的に「新たな支え合い活動」の必要性を学び、実感することへとつながっている。このことが、受講生が自らの意志で活動を企画し、講座修了後も自らその活動実現にむけて動き出す力を生み出すことにつながっているのではないかと考えられる。

8. 今後の課題

本講座は、当初3カ年のモデル事業として開始したが、2012年度以降も引き続き7者協働で実施していく予定で、今後本講座をどのように展開していくか、現在7者で協議を行っているところである。その協議の中では、以下の4点が課題として主に指摘されている。

(1) 受講生の開拓

受講生は3市社協が募集と取りまとめを行っており、この3カ年は、ボランティアや民生委員、地域団体の役員など、市行政や市社協となんらかのつながりがある住民が受講することがほとんどであった。しかし今後は、これまで地域活動にはあまり参加していなかった新たな人材に受講してほしいという社協からの意見もあり、こうした「地域活動デビュー層」に配慮した内容も盛り込む必要がある。

(2) 講座の名称

(1)の課題とつながるが、今後新たな受講生を開拓していく際に、「地域福祉ファシリテーター」というものがどういうものであるか、講座名を見ただけでは住民に伝わりにくいという意見が、行政・社協から寄せられている。講座を企画した段階では、あえて「活動のリーダー」ではなく「地域の福祉活動の促進者＝ファシリテーター」を養成したいという思いからあえてこの名称にしたが、受講生を公募する際に、住民がその名称だけ

では講座修了後の具体的な活動内容をイメージしにくいことも事実であり、講座名称にサブタイトルをつける等の工夫が求められる。

(3) 講座の実施期間と回数

受講生にとって、8ヶ月間の講座期間は長く、また全体8回+グループ学習という講座回数も多く、負担であるという意見も寄せられている。一方、「地域福祉ファシリテーター」として地域で「新たな支え合い活動」を展開していくスキルを学ぶためには、一定の時間数と小グループでの丁寧な指導が必要であり、受講生の負担とスキルを学ぶために必要な時間との兼ね合いを考慮し、講座の期間と回数についても検討していくことが求められる。

(4) 大学としての修了生のフォロー

講座最終日に行ったアンケートでは、「学んだこと、現実の中でぶつかる困難、半年後ぐらいに複数というかスキルアップというか、または学ぶ機会があるとうれしいです」「同窓会のような組織を作っていただき、常に新しい情報を交換できる場を作っていただきたい」という、講座修了後のフォローアップを求める意見が受講生から複数寄せられた。これをうけて、修了生と受講生の交流の機会として「茶話会」を2010年度から実施しているが、修了生が展開する活動が少しずつ定着し始めていることをふまえ、修了生が一堂に集い、活動報告や情報交換を行う場を設けることも、今後の検討課題である。

大学が、3つの市行政・市社協という、行政区域の枠を超えて協働し、地域福祉活動の核となる住民を養成するこの取り組みは、全国的にもあまり例がないものである。地域住民同士のつながりが弱くなり、社会的な孤立・孤独が課題となっている現代、この講座を修了した「地域福祉ファシリテーター」によって、住民同士の支え合いの活動が地域で次々と新たに展開されていることは、本講座の成果として大いに評価できよう。2012

大学・行政・社協の協働による、地域福祉活動の核となる住民養成「地域福祉ファシリテーター養成講座」の取り組み

年度以降の講座は、これまでのプログラムをより充実させ、新たな活動者の開拓も含め発展させていくことが、求められている。

注

- 1) 本学・コミュニティ人材養成センターは、本学の社会貢献・地域連携活動の拠点として、コミュニティにおける「人に関わる人材」の養成活動を展開することを目的に、学院創設100周年を記念して本学附属機関として設立されたものである。なお、

本講座に関わっている教員は、和田敏明、原島博、福島喜代子、秋貞由美子の4名である。

- 2) 原稿執筆時（2011年11月時点）は2011年度の講座はまだ実施中であるため、一部途中経過のデータである。
- 3) 参考：特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会ホームページ <https://www.faj.or.jp/>